

平成 30 年 3 月
活き生き TUMA 未来予想会議 II
(津万地区まちづくり行動計画策定会議)

目次

I. はじめに	p.1
… 1. 計画の背景と目的	p.1
… 2. 第2期津万地区まちづくり計画について	p.1
… 3. 計画策定の経緯	p.2
… 4. 計画の策定方針	p.2
… 5. 計画の構成	p.2
II. 津万地区まちづくり行動計画 計画策定の経緯	p.3
… 1. 第2期津万地区まちづくり計画の確認	p.3
… 2. 検討・提案チームの編成	p.4
… 3. チームごとの課題整理・課題解決のアイデア出し	p.5
… 4. 具体的な行動計画の検討	p.8
… 5. 計画のまとめ	p.10
… 6. 計画の実現主体	p.10
III. 津万地区まちづくり行動計画	p.11
… 1. 子供達が住み続けたいまちをつくる	p.11
… 2. 高齢者の生活支援をする	p.12
… 3. 若者の参加しやすい地域をつくる	p.13
… 4. 地域のかくれた資源を活用する	p.14
… 5. 地域活動に参加する人を増やす	p.15
まちづくり行動計画策定会議委員名簿	p.16

I. 津万地区まちづくり行動計画 はじめに

1. まちづくり行動計画の背景と目的

津万地区まちづくり行動計画では、平成28年度に策定した「第2期津万地区まちづくり計画」を実現するにあたって、その計画の実施主体や実施方法などを示し、より具体的な実現への道筋を明らかにすることを目的としています。

2. 第2期津万地区まちづくり計画（平成28年度）について

まちづくり計画策定委員会では、平成28年度に「第2期津万地区まちづくり計画」を策定しました。

活き生きTUMA未来予想会議 第2期津万地区まちづくり計画
～人が活き生き まちが活き生き 笑顔あふれるTUMAの里～ オール津万 みんなで創るまちづくり

平成28年度1年間をかけて、活き生きTUMA未来予想会議では、皆で地域の課題を洗い出し、その課題のうち「地域みんなで解決できるもの」を探し出し、課題解決の方法を考え、地区まちづくり計画としてまとめました。今後は、この計画をもとに津万地区をよりよいまちにしていけるための具体的な活動計画をつくり、実際に取り組んでいきたいと考えています。

みんなが活き生きと暮らしていれば、まちもきっと活き生きとしてくるでしょう。そうなれば、津万は皆の笑顔あふれるステキな地域になるでしょう。まちづくりでは、地域に住む住民ひとり一人が主体的に関わるのが重要です。津万地区の住民のできるだけ多くの皆さんにまちづくりに参加していただきたいという思いを込め、まちづくり計画のタイトルを「オール津万 みんなで創るまちづくり」としました。

1. みんなが仲良く、安心して暮らせるまちづくり ～地域全体が家族のように暮らせるまちに～	3. 地域愛にあふれるまちづくり ～みんなが参加し協力し合う、元気のあるまちに～
解決したい現状の課題 ・地域から出ていく若者が多く、地域の元気がなくなりつつある ・高齢の皆さんが多くなり、地域活動への参加がしにくくなっている ・皆で集まる機会が減っていて、地域内の交流が減っている	解決したい現状の課題 ・子供会や老人会などの活動が少なくなり、地域の元気がなくなっている ・高齢の皆さんが多くなり、地域活動への参加がしにくくなりつつある ・皆で集まる機会が減っていて、地域内の交流が減っている
こんな風なまちになるといい 「地域の皆が家族のように仲良く、声をかけあってくらせるまち」	こんな風なまちになるといい 「みんなが支え合い、みんなが元気にくらしているまち」
<取り組み方針> ・安全に、安心して暮らせるまちにする ・家族が一緒に住めるまちにする ・雇用を創出し、若い人が暮らしやすいまちにする ・子育てに協力し、子供の声が聞こえるまちにする ・人のつながりを活かし、地域の皆が気軽に交流できるまちにする ・地域で介護について考える ・近所づきあいを活かし、高齢者の介護・見守りに地域で取り組む	<取り組み方針> ・地域への愛着を育てる ・地域活動に参加する人が増えるようにする。参加意欲を高める ・人権に対する意識を高め、活動を活発にする ・若い人や女性に地域活動、ボランティアを促し、役員として活躍してもらう ・地域活動への参加意欲を高め、役員やリーダーになる人材を育てる
2. 生活が便利で誰もが住みやすいまちづくり ～公共の施設や移動手段が充実した便利なまちに～	4. 地域の資源を活かした魅力あるまちづくり ～地域の個性も魅力と捉え活用できるようなまちに～
解決したい現状の課題 ・年々交通手段が減少し、移動手段に困ることになる ・医療福祉施設や商業施設は充実しており、移動手段を別にすればほぼ困っていない ・ゴミの分別回収が徹底されておらず、近隣の迷惑になっている場合がある	解決したい現状の課題 ・あじさい園はたくさんの観光客を集めており、この魅力をもっと活かしたい ・空き家や空き地・遊休地が増加している ・大雨などの自然災害や、がけ崩れ等の心配のある地域がある
こんな風なまちになるといい 「公共施設が充実していて移動手段に困らない、便利にくらせるまち」	こんな風なまちになるといい 「地域の魅力をもっともって発信していくまち」
<取り組み方針> ・お年寄りや障害者でも生活できるようにする ・移動手段の選択肢を増やし、便利に移動できるようにする ・高齢者が車を運転できなくなっても困らないようにすることで、高齢者の交通事故をなくすように取り組む ・買い物やサービス施設などをさらに充実させる ・地域変化につとめる・地域の変化に取り組む	<取り組み方針> ・あじさい園を大切にし、活動を広げ、魅力を発信する工夫をする ・空き家、休耕田、廃工場などの使われなくなった施設を地域のために活用する ・後継者不足の問題などを解決し農業を再生する ・市街化調整区域の問題を解決する ・自然災害に備え、防災訓練など、地域防災の取り組みを充実させる

平成28年度に策定した「第2期津万地区まちづくり計画」

この「まちづくり計画」では、津万のまちづくりの目標として

1. みんなが仲良く、安心して暮らせるまちづくり
2. 生活が便利で誰もが住みやすいまちづくり
3. 地域愛にあふれるまちづくり
4. 地域の資源を活かした魅力あるまちづくり

を掲げており、解決したい現状の課題についてまとめています。課題解決の取り組みについても、その方針をいくつかの項目としてまとめていましたが、具体的な取り組みをどのように進めるのかの詳細についてまで踏み込んだものにはなっていないため、平成29年度をにかけて、まちづくり計画を実行に移すための「行動計画」をまとめることとしました。

3. まちづくり行動計画策定の経緯

この計画は平成29年度の1年間、津万地区まちづくり行動計画策定会議（活き生きTUMA未来予想会議Ⅱ）を5回にわたって開催し策定されました。

■津万地区まちづくり行動計画策定会議（活き生きTUMA未来予想会議Ⅱ）の開催経緯

第1回	平成29年7月14日	まちづくり計画の確認、検討チームの編成決定
第2回	平成29年8月30日	各チームの課題の整理、課題解決策の検討
第3回	平成29年10月3日	実行すべき課題解決策の整理とスケジュール提案
第4回	平成29年11月27日	これまでの意見をまとめた行動計画の検討
先進地見学	平成30年1月27日	神出ファームビレッジ 口吉川ふれあいバス（三木市）
第5回	平成30年1月29日	行動計画案の作成

「まちづくり行動計画」の策定は、「まちづくり計画」をどのように実現していきたいかの興味を同じくするメンバーにより5つの提案チームをつくり、チームごとに地域課題の洗い直しや、課題解決の方法について検討を行い、行動計画としてまとめる方法で進めてきました。つまり、この行動計画は、各提案チームの意見をまとめたものです。

4. まちづくり行動計画の策定方針

まちづくり行動計画の実施にあたっては、平成30年度から、具体的な行動を起こせるように配慮し、「次に何をしたらいいか」ということが具体的に書かれることを目指して作成しました。

今後、できるだけ多くの地区内外の皆さんを巻き込みながら、よりよい津万地区を実現していく具体的行動を記載しています。

計画は、必要に応じて改変可能なものです。また、自治協議会内での意見調整も必要になります。皆さんの意見によって、適宜軌道修正を加えながら、計画の実現に向け取り組んでいきましょう。

5. まちづくり行動計画の構成

この計画書では5回の会合の経緯を振り返った上で、策定した計画を最終章にまとめて掲載する構成としています。また、計画の骨子については、津万地区住民の皆さんにも、広く知らせるため、配布用の概要版を作成しました。

Ⅱ. 津万地区まちづくり行動計画 計画策定の経緯

1. 第2期津万地区まちづくり計画の確認

行動計画の策定は、平成28年度に策定した「第2期津万地区まちづくり計画」を確認することからはじめました。策定完了の際に、策定委員の皆さんに計画の実現についてアンケートを配布しましたが、そのアンケートの回答の中に、いくつかの提案がありました。

行動計画策定会議では、このアンケートに書かれていた提案を整理しました。その生理の結果は以下の通りです。

アンケートに記載された提案	個人の努力	みんなで作れる	市役所企業に要望
バイパスに大型商業店舗誘致			○
公園の遊具を充実			○
あじさいいっぱい運動の充実	○	○	
八日山整備の充実		○	
ウォーキングの充実		○	
休耕田・遊休農地の活用	○	○	○
耕作放棄地を市民農園に	○	○	○
TUMA こいカフェ マラソン大会		○	
防犯カメラの設置			○
高齢世帯の移動支援		○	△
移動販売車による買い物支援		○	○
高齢世帯にお元気ですかの葉書郵送		○	
自宅周辺美化（美化チーム）	○	○	
あじさいの活用（津万地区のPR）		○	○
あじさいの活用（物産販売）		○	
あじさいの園地を増やす		○	
あじさいロード		○	
継続的イベントの開催→しんどいけど頑張る		○	
活動に参加する人を増やす		○	
市役所とのコミュニケーションを豊かに		○	○
若い人の参加を募る		○	
無関心な人とも根気よく一緒に考えよう	○	○	
計画の進捗状況を、地域住民に報告（年2回）		○	
TUMA こいカフェの交流を広げる		○	
小学校の木造校舎を活用		○	○
体験型観光を取り入れる（旅行社・観光協会）		○	
篠山に来る観光客を呼び込む		○	△

行動計画の策定にあたっては、アンケートで提案のあったこれらの項目についても、検討していくこととしました。

2. 検討・提案チームの編成

行動計画の検討は、会議全体で行うよりも、策定会議のメンバーが分担して行う方が効率的に集中した議論ができることから、検討・提案チームを編成することとしました。

お互いに似た興味を持つ仲間グループをつくろうとしたところ、5つのチームができました。この5つのチームで検討・提案を進めていくこととしました。

編成された5つのチーム

① (チーム名) 親子ほど [子供の支援]	テーマ	津万の子供たちを健やかに育てたい
	問題意識	外で遊ぶ子供たちを増やしたい 例えば公園の遊具については、町内にバラバラにある状態よりも（子供も減っていることもあり）地域で大きなものを1つ設置する方が良いのではないか？
	キャッチコピー	子供たちを青空の下へ！
② (チーム名) 人力車 [高齢者支援]	テーマ	高齢者の不便を解決できるようにしたい
	問題意識	お年寄りには運転免許証を返納すると、買い物や病院への通院の手段が限られてくる。コミュニティバス運行は限られていて利用も少ない。オンデマンドな移動手段があると利用しやすい。また、移動手段だけでなく、様々な生活シーンでの支援も考えたい。
	キャッチコピー	高齢者の希望かなえます！
③ (チーム名) あの時僕達若かった [若者の地域参加]	テーマ	若者が地域活動に参加してくれる地域にしたい
	問題意識	若い人たちが地域活動になかなか参加してくれない。こういう会議にもできるだけ若い人が参加してくれるといいと思う。各種団体の役員に若い人が入ってくれるような状態がつくれるといい。
	キャッチコピー	若い人の活動を高めよう！
④ (チーム名) 地域資源活用 [来訪者の増加]	テーマ	年間を通して人を津万に呼び込みたい
	問題意識	あじさい・桜・もみじなど、津万には地域の資源がたくさんある。空き家や放棄田も活用できる地域の資源。 将来的には体験型・滞在型の観光地を目指したい。
	キャッチコピー	たくさんの人に津万に来てもらおう！
⑤ (チーム名) TUMAは1つ [コミュニティ育成]	テーマ	地域の人たちが楽しく参加できるイベントをしたい
	問題意識	各種団体が力を合わせて集まれる行事、老若男女が協力し合える行事が少なくなっている。行事に参加して知り合いが増えることで、あいさつが交わされ、防災安全情報の共有ができたり、お年寄りの安否確認ができたりと、住みよい地域に育っていく。
	キャッチコピー	TUMAは1つ！

以降、このチームで検討・提案を行います。

3. チームごとの課題整理・課題解決のアイデア出し

各チーム別に「第2期津万地区まちづくり計画」を参照しつつ、それぞれのテーマに沿って現状の地域課題をリストアップし、その課題解決のためのアイデアを出す作業を行いました。

① 親子ほど [子供の支援]	
目標	子供が住み続けたい津万（まち）
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・家（新居がない） ・仕事が少ない・働く場所がない 魅力がない 津万で休日を過ごすイメージがない 店舗が少ない 大学がない ・子供の遊び場がない 遊べる複合施設がない 遊具が少ない 遊べる時間がない 外で遊ばない 子供が少ない つながり、人付き合い <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんや子供同士が仲良くなりにくい ・人が嫌い 付き合いが大変 保護者の交流がない ・地域のつながりがいい 古い付き合いが苦手
解決策	公園の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・充実した公園をつくる・総合的公園の設置 ・最低半日過ごせるイメージが出る公園 ・子供の目がキラキラするスペシャルな公園 ・生きて行く力を学べる公園 いろいろな遊び・体験の機会をつくる <ul style="list-style-type: none"> ・サーカスを呼ぶ 駄菓子屋 子供たちの希望を聞く ・登山・ラフティング・子供だけで魚釣り ・インドアの遊びをさせる（ボードゲーム） 子供のうちから地域との接点をつくる <ul style="list-style-type: none"> ・子供あじさいボランティア 子供商店 交流の機会をつくる <ul style="list-style-type: none"> ・運動会・ゲーム大会・マラソン大会 ・時間をつくる
② 人力車 [高齢者支援]	
目標	高齢者の移動手段を解決
課題	移動の問題 <ul style="list-style-type: none"> ・気軽に出かけられない ・美容院が遠くて歩いていけない 医者に行く手段がない スーパーが遠い ・ピンポイントに短時間で行けない（時間がかかる） 直接目的地に行けない ・タクシーを頼むにはお金がかかる 自家用車の問題 <ul style="list-style-type: none"> ・車に乗れなくて買い物に行けない 免許証を返すと移動するのに困る ・人に頼みにくい 公共交通の問題 <ul style="list-style-type: none"> ・バスの回数が少ない（土日は休み） バス停の間が遠い バス停までが遠い ・みんなバスに乗っていない ・つくしバスは時間の制約がある 神姫バスは自由にとまってくれない
解決策	タクシーの割引乗車券など <ul style="list-style-type: none"> ・タクシーの高齢者定期券（免許証返納すればタクシー補助をしてもらえる等） 地域で乗り合い <ul style="list-style-type: none"> ・地区の便利屋センター 登録会員制のシステムをつくる、会員制にする ・行きたい時に呼んで利用する ・ネットワーク（ライングループ的な）を活用。移動に協力できる人を養成。 ・地域でお互いに乗車できるシステム 電話をすると空いている人が車を出す ・地域で一台車を購入する 自由にとまれるワゴン車（オーダー制） 公共交通を便利に <ul style="list-style-type: none"> ・バス1日フリー券

③ あの時僕達若かった [若者の地域参加]	
目標	TUMAの未来は若者から ～若者が（強制ではなく）進んで地域づくりに参加しているまち～
課題	<p>時間や余裕がない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間が無い 昼間の行事が多い 育児に追われている 仕事に追われている ・親の世話にかかりきり ・趣味に没頭している・団体行動を好まない <p>負担に感じる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員になった時の負担を嫌う <p>環境の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員に年配者が多い ・老人が元気すぎて、がんこ 若者の意見をきかない、取り入れない
解決策	<p>参加を促す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供の行事を増やす行事に子供同伴する 世話をしている親も同伴 ・夜の行事を取り入れる ・TUMA 地区の行事をPRする（行事で周知徹底する） <p>負担感を減らす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員の負担を少なくする 役職を増やす（1人の負担を減らす） <p>現在の環境を見直す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定年制の導入（役員）65歳定年 ・若者の意見を取り入れる、若者との交流の場をつくる 聞く耳をもつ ・街へ出ている息子を呼び戻す

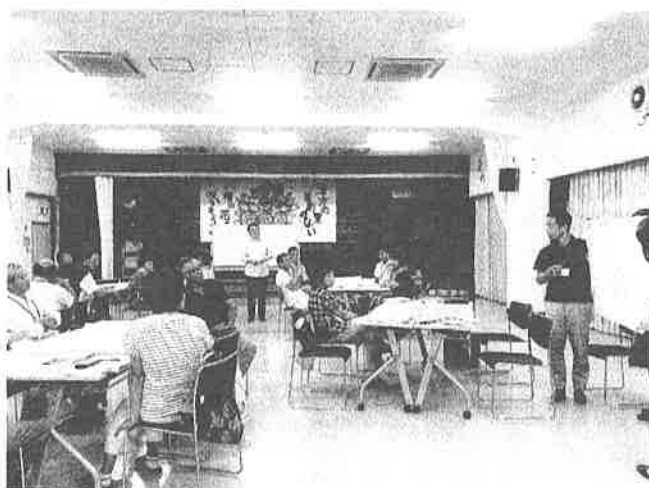
④ 地域資源活用 [来訪者の増加]	
目標	お客様でいっぱい津万の里！！づくり
課題	<p>観光資源</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光資源が少ない あじさい以外のもの（資源）が少ない ・そもそも客が少ない（年間）あじさい期間のみ（1万人） ・TUMA こいカフェもお客は地元の人（関係者） ・あじさいボランティアがもっと必要 ・公共交通がない <p>広報の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津万の魅力が発信できていない ・外部の人を呼び込む手段がわからない <p>空き家、農地を借りる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家を貸してくれる人がいない 田畑を貸してくれる人がいるか分らない ・リフォームの費用が必要（お金がない） 予算（金）がない ・賃貸料が生じる（空き家、田畑）→どこから出す？ ・市民農園の法律があるならクリアできるか
解決策	<p>観光資源の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あじさいの挿し木体験 野菜づくり体験 ・スポーツ団体の合宿を誘致 ・かくれた観光資源をリストアップ ・体験型滞在の仕組みづくり 長期滞在のしくみづくり <p>費用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リフォーム費用、補助金をさがす（国、県、市） 自分たちでリフォームする ・放棄田にあじさい→販売（大地農園） <p>空き家、農地の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家を貸してくれる人を募集する（田畑も） ・市民農園の組織をつくる

⑤ TUMAは1つ [コミュニティ育成]	
目標	イベントへの参加を通して地域活動へ地域みんなが積極的にかかわる
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の意識・関心が薄い ・防災訓練の参加者が少ない ・必要性を感じていない ・道筋（展望）が見えにくい ・顔を知らない人が多い
解決策	<ul style="list-style-type: none"> ・まず来てもらう ・主催者になってもらう ・全員が活躍する場がある（役割がある） ・インスタ映えのするイベント ・楽しいイベント ・行って良かった（分った+α：芸能人を呼ぶ、エコポイント、もので釣る、食べ物無料、ビンゴゲーム） →ロコミ（楽しかったよー） 隣のおばさんに伝えたいくなる
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・インスタで拡散 ・継続する事で同窓会に ・エコなイベント（ゴミの分別、ペットボトルのキャップ、アフリカ支援） ・意味の有るイベントに ・今後、上野会館→道の駅の周回バス

これをもとに、各チームから出された課題・解決策を整理し、スケジュールを含んだ具体的な行動に落とし込む作業を行うこととしました。



第1回会議の様子
2017/7/14



第2回会議の様子
2017/8/30

4. 具体的な行動計画の検討

前節で出されたアイデアをもとに、各検討・提案チームで、スケジュールを含む具体的な行動の計画を検討しました。検討の結果は以下の通りです。

①親子ほど [子供の支援]	
すぐに やること	時間をつくる、交流の機会をつくる 子供あじさいボランティア インドアの遊びも（ボードゲーム等） 子供達の希望をきく ・子供会との連携 ・学校との連携、地区別児童会 ・子供達の希望を絵画で表現する →数人で大きな紙にアイデアを表現する 子供のうちから人とたくさん接する機会をつくる
1～2年で やること	運動会（家族）ゲーム大会、マラソン大会等 登山・ラフティング、子供だけで魚釣り ・使える場所はある→場所の活用方法が課題 サークスを呼ぶ 駄菓子屋 こども商店
5年後までに やること	行きていく力を学べる公園 最低半日過ごせるイメージができる公園
②人力車 [高齢者支援]	
すぐに やること	【地域で取組むこと】 地区の便利屋センター（電球の取り替えなど） 電話をするとあいているひとが車を出す ・協力者を募集する ・具体的な計画書を作る ・運転が好きな人を探す 【行政や企業に依頼すること】 ・バス1日フリー乗車券 ・免許証を返納するとタクシー等の補助をしてもらえる仕組み ・タクシーの高齢者定期券
1～2年で やること	【地域で取組むこと】 登録会員制のシステムをつくる ネットワークを利用して移動に協力できる人に要請する仕組み ・運転者と利用者のマッチングシステム 【行政や企業に依頼すること】 地域で車を1台購入する 自由に停まれるワゴン車（オーダー制） ・企業に協賛を募る 行政に補助をお願いする
5年後までに やること	行きたい時に呼んで利用できる仕組み 地域で車に乗せてあげられるシステムをつくる

③あの時僕達若かった [若者の地域参加]	
すぐに やること	聞く耳を持つ ・聞き上手になる 上手にうなづく 聞く事につとめる ・意見投入箱を作る 酒の席を設ける TUMA 地区の行事を PR する (行事の周知徹底) ・広報紙面を充実させる、FB、全戸配布する 夜の行事を取り入れる ・各町もちまわりビアガーデンを開催・カラオケ大会を開催する
1～2年で やること	【個人で取組むこと】 まちへ出ている息子呼び戻す ・親の努力 親が仕事を見つける 孫を手なづける 【地域で取組むこと】 役員の負担を少なくする ・行事を減らす 1人何役もの役職を減らす 子供の行事を増やす ・津子連全体の行事を増やす 役職を増やす ・職務を分担し軽減 副部長、副会長を多数作る 女性の役職を増やす 組織の活性化、役員定年制の導入 (65歳定年) ・若者を早く役職につかす 退任するときは後継者をつれてくる 若者の意見を取り入れる、若者との交流の場をつくる ・合コンを企画する 酒の場を設ける
5年後までに やること	津万地区にコミセンを
④地域資源活用 [来訪者の増加]	
すぐに やること	【地域で取組むこと】 空き家を貸してくれる人を募集する (田畑も) あじさい園に人を呼び込む工夫をする (あじさいロード) ・あじさい切手の発行 FB、インスタ、ホームページの充実 ・田空～あじさい園、175号～あじさい園、大津神社～あじさい園 の道沿いにあじさいを植える ・のぼり旗で誘導 ・田空と協力、田空ツアーにのせる、花落としの時 (日程調整が必要) 【行政や企業に依頼すること】 リフォーム費用補助金を探す 市に相談 ・企業、金融機関の機関誌を利用、ミニコミ紙、ラジオ、テレビを活用 →あじさいPR
1～2年で やること	市民農園の組織をつくる 野菜づくり体験 ・PR、放棄田をロコミで探す、生き TUMA 広報、チラシで募集 ・まとまった区画を貸してくれる人を探す、大垣内にあるかも ・水の確保 (水道、井戸)、駐車場の確保、区画分け、いくらで貸すか ・儲けなくても OK、種、肥料込みの貸し貸で契約 ・ルール、法律等をクリア、農振法、調査 ・普段の管理ができる体制、サポートできる体制 ・指導者をつくる、トラクターを借りる、専門家 放棄田にあじさい→販売 (大地農園)
5年後までに やること	自分たちでリフォームする ・リフォーム隊をつくる ・和田町の例を参考に (見学) 長期滞在の仕組みづくり 体験型滞在の仕組みづくり スポーツ団体の合宿を誘致

⑤TUMAは1つ [コミュニティ育成]	
すぐにやること	まずイベントに来てもらう インスタで拡散（活動内容を知ってもらう） ・チラシ、回覧、防災無線、口コミ、参加賞 エコなイベント ・イベント毎にアンケート実施、より充実したものにするため ・テーマ：分らないことが分るようなイベント ・イベント毎にPR、ウォーキングなども 楽しいイベントにする ・所属感（津万地区でよかった）と思えるイベントを ・人数が少なくチームが組めなくても参加できるようなイベントを
1～2年でやること	【地域で取組むこと】
5年後までにやること	全員が活躍する場がある（役割がある） ・ターゲットを絞る 主催者になってもらう 意味のあるイベントにする 行ってよかったイベントに インスタ映えするイベントにする ・実行委員会押し付けではなく、やる気のある人を探す

5. まちづくり行動計画のまとめ

上記のような5回にわたる会議をふまえて、最終的に事項以下の「津万地区まちづくり行動計画」案をまとめました。

この行動計画案は、策定委員会から生き生きTUMA協議会に提案される予定になっています。その後は協議会がこの計画を推進することとし、策定会議のメンバーも協力しながら、津万地区の地域住民の協働のもと、計画実現に向けた取り組みを行っていく予定です。

6. まちづくり行動計画の実施主体

行動計画の実行にあたっては、津万地区で組織される予定の「自治協議会」が、この計画を引き受けることを前提とします。個別の進め方は、自治協議会での検討に任せることとなりますが、自治協議会内に編成された「各部会」が、それぞれの計画実現に向けて行動することを想定して内容を記載しています。

ここでは、各部会は計画実施の始動力となる必要があります。そして、早期に地区住民の皆さんから協力者を募り、実行部隊（事業に協力できる人）を増やしていくことが望ましいと考えています。

第3回会議の様子 2017/10/3



Ⅲ. 津万地区まちづくり行動計画

1. 子供達が住み続けたいまちをつくる

(1) 短期行動計画 (すぐにでも実現)

- ①子供会と自治協議会との連携の下地づくり
 - ・子供会と自治協議会との連携をはかる
→自治協議会で子供会を支援する仕組みをつくる
 - ・子供会単独では動きにくいので、子供会のサポート (アドバイザー) を行う
- ②子供達はどんなことに興味があるかを知る活動
 - ・子供達の声を聴く
 - ・イベント等で子供会などと協力する
 - ・子供たち参加による地域の将来像づくりワークショップを開催する
- ③子供たちが地域の大人たちと接する機会をつくる
 - ・お年寄りのイベント (ふれあい喫茶など) に子供達も協力してもらう (子供スタッフの募集を積極的に行う)
 - ・大人たちも積極的に子供たちにあいさつする。
→「あいさつが積極的に行えるまちはよいまち」の普及・啓発をする

(2) 中期行動計画 (1~2年で実現)

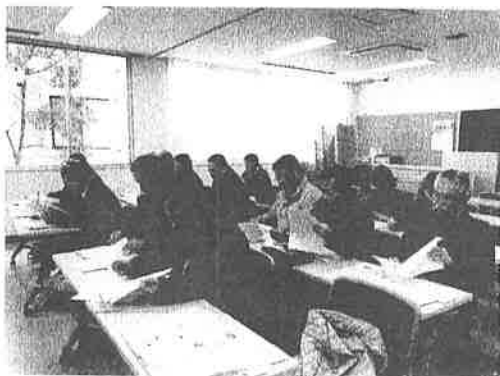
- ①子供達向けのイベントを開催してみる
 - ・運動会、ゲーム大会、マラソン大会、登山、ラフティング、魚釣り等
 - ・津万地区全体としてやりやすい (皆がかかわりやすい) のは「運動会」の復活
- ②子供達だけでイベントを企画・運営してもらう
 - ・子供達に参加してもらい、自分たちで主体的にイベントに参加してもらう
→子供商店 | キッズニア津万のようなイベント
cf. ミニ・ミュンヘン | カエル・キャラバン | ちびっこうべ など
(ゼロから企画するのは難しいので、ベースの仕組みと予算は大人が用意する)

(3) 長期行動計画 (5年をめどに)

- ①できるだけ継続して行う
 - ・新しいイベントは常に「続けること」を意識して始める

(4) 行政や企業への協力依頼

- ①子供達がいきいき遊べる公園整備
 - ・子供会と自治協議会で協力して公園整備の資料・提案書を作成し、市に提案する
- ②理想の公園づくりワークショップの開催
 - ・子供たちとともに、理想の公園を考えるワークショップを開催する



先進地視察研修 2018/1/27

【三木市口吉川ふれあいまちづくり協議会】

2. 高齢者の生活支援をする（移動手手段の改善を中心に）

(1) 短期行動計画（すぐにでも実現）

- ①助け合いのしくみ（地区内の便利屋センター）をつくる
- ・制度（しくみ）の設計（受付、連絡調整、派遣、課金）
 - ・まずは動かすことが大切なので、助ける人、助けてもらう人を集める
- <検討課題>
- ・事務局 | 利用料金の仕組み | 受付連絡先が必要 | インターネット利用の仕組み
 - ・地区内で同様の取り組みを行っている団体があるため、競合に配慮する
- ②助け合いのしくみに自家用車搬送を取り入れる
- ・助け合いのオプションとして運営（物運びなどのサービスから始める方法も）
 - ・市の福祉セクションとの連携も検討する
 - ・地域の要望を確認するためのアンケート調査を実施する
 - ・行政との調整が必要なので、早期から市や県、国交省・県警を巻き込む
 - ・事務局による勉強会を開催する（講師を呼ぶための助成金を探す）
- ex) 2ヶ月に1度開催（勉強会のコーディネーションが必要）
- ゲスト講師：先進地の人・国交省・県警・経営コンサルなど
- 誰でも参加できる講座として開催し、興味のある人を一本釣り
- 広報が必要（全戸配布チラシ・回覧が最も効果的）
- ・市役所が委託業務としてやる可能性についても市と協議する
- <検討課題>
- ・自動車の入手 → 勉強会で勉強する | 当初は個人の車でも構わない
→ 実績をつくり、その後民間補助金の活用や行政の協力をあおぐ
 - ・スタッフが必要 → 勉強会や広報等を通じて募集する
→ 基本的に定年退職後の男性が中心 | パートタイム採用など参加しやすく
 - ・スタッフの講習が必要
→ 仕組みについては、国交省・県警等をゲストに迎えた勉強会で勉強する
 - ・何かあった時のための保険などの研究が必要

(2) 中期行動計画（1～2年で実現）

- ①移動手手段の登録会員制のしくみづくり
- ②ネットワーク活用によるマッチングのしくみづくり（IT技術の活用が必要）
- <検討課題>
- ・開設費・タブレット配布費用の負担 cf. あいあい自動車（三重県菟野町）

(3) 長期行動計画（5年をめどに）

- (1)～(2)を採算とれる（続けられる）ものにする
- ・採算がとれるようにするのは、続けるため。利益を出すためではない

(4) 行政や企業への協力依頼

- ①短期
- 高齢者の移動手手段を補完するしくみを行政と交通事業者で検討してもらう。
- 1日フリー乗車券、タクシー定期券（免許証の返納を条件に）
- ②中期
- 地域で車（ワゴン車等）を1台購入させてもらう（企業協賛／行政の助成を検討）

3. 若者の参加しやすい地域をつくる

(1) 短期行動計画 (すぐにでも実現)

- ①大人たちが変わらないといけないことを知る
 - ・聞く耳を持つ
 - 聞き上手になる、上手にうなづく、意見箱をつくる、酒の席も必要
 - 地域内の若者対象のアンケート調査を実施する
- ②若者にも参加しやすいイベントを開催
 - ・若い人達にどんなイベントなら参加しやすいか聴いてみる
 - ・ビアガーデン | カラオケ大会など若い人たちも参加しやすいイベントを検討する
 - ・子供向けイベントを増やす
 - 親が出てきやすくなる →若い人たちの参加

(2) 中期行動計画 (1~2年で実現)

- ①役員やスタッフの負担を少なくする
 - ・役員の数を増やして、仕事を分担し、1人あたりの仕事を減らす
 - ・女性の役職を増やす ←女の人が出やすい雰囲気づくりをする
- ②組織の活性化、役員定年制の導入
 - ・なるべく次世代に活躍してもらえるように、立場を譲ることを検討する
- ③若者の意見を取り入れる、交流の場をつくる

(3) 長期行動計画 (5年をめどに)

- ①まちへ出ている息子や娘を呼び戻す
 - ・親の努力も必要
 - ・「津万に帰ると楽しい」を実感してもらえるようにする

秋こいフェスティバル
2017/9/9



4. 地域のかくれた資源を活用する

(1) 短期行動計画（すぐにでも実現）

- ① 今ある資源をより活用する方法を考える
 - ・ あじさい園にもっとお客を呼べる方法を考える
→ 切手発行、Facebook、Instagram、Web 充実
 - ・ あじさいをもっとあちこちに植えてみる
→ 田園空間博物館～あじさい園 | 175号～あじさい園 | 大津神社～あじさい園
→ ①でリストアップした活用できる田畑にあじさいを植える
 - ・ 田園空間博物館と協力してあじさい園へも足を運んでもらう
→ 田空ツアーに入れる、花落としに来てもらう
- ② ボランティアスタッフの充実を図る
 - ・ あじさいの活動は、ボランティアとして比較的参加しやすい
 - ・ あじさいを地域活動のきっかけとしてももらう

(2) 中期行動計画（1～2年で実現）

- ① どんな資源が活用できるかを明らかにする
 - ・ 空き家や農地を貸してくれる人を募集する
 - ・ 簡単なアンケートをとってみる → 貸すか貸さないか | 貸す条件は？
 - ② 有休農地を使って市民農園を運営する
 - ・ 農地が確保できたら、水道、トイレ等の条件を満たせる所で市民農園を開く
 - ・ 農園利用者へのPR活動を行う（できるだけ地区外の人達にアプローチ）
 - ・ 利便性やサポート体制（利用者の世話をする人）を徐々に充実させる
- <検討課題>
- ・ スタッフの体制、料金体系 | 法的問題の整理 | 指導者の育成

(3) 長期行動計画（5年をめぐりに）

- ① 空き家を活用した週末居住施設をつくる
 - ・ 有志を募ってリフォーム隊を結成する
 - ・ 事例研究をする
- ② 体験滞在型の仕組みをつくる

(4) 行政や企業への協力依頼

- ① リフォーム費用などの補助金が使えないか協力を依頼する



5. 地域活動に参加する人を増やす

(1) 短期行動計画 (すぐにでも実現)

- ① 様々なイベントを知ってもらう
 - ・現状の地域活動やイベントについて、全体像を知る
 - ・秋こいフェスティバルなど、津万全体で行われているイベントをリストアップ
→どんな目的で、どんな成果を目指しているかを明らかにする
 - ・どんな楽しさがあるか、どんな人来てもらいたいかを明らかにする
→お客さんとして来るのか、主催者側で来るのかを明らかに
 - ② 楽しいイベントにする
 - ・広報に「参加者の声」を導入する
 - ・参加しやすくする (チームを組まなくても参加できる、初めての人も歓迎する)
 - ③ 多くの団体を巻き込む
 - ・各イベントの運営委員会や、参加している各種団体の理解と調整を進める
 - ④ 広報の方法を見直す
 - ・チラシ、回覧、防災無線、掲示板、口コミ、参加賞、参加スタンプ etc
→パッケージ化、チェックリスト化する
- <検討課題>
- ・どのようにしたら若い人たちにも参加してもらえるかを検討する

(2) 中期行動計画 (1~2年で実現)

- ① 主催者側で参加してもらえるようにする
 - ・スタッフとして参加することの楽しさを知ってもらう
 - ・スタッフとして参加してもらうための広報を充実させる
→特に中学生や高校生に手伝ってもらえるように広報活動をする
 - ・やってみたら楽しかったという経験を広報に活かす
- ② できるだけ次の世代に人達に任せてみる
 - ・次世代の人達に任せる仕組みづくり (参加した人に報酬が出る仕組みが有効)
- ③ 参加してくれた人達のつながりをつくる
 - ・参加してくれた人達に連絡がとれる仕組みをつくる (同窓会につなげる)
 - ・参加したどうしがつながれる仕組みをつくる

(3) 長期行動計画 (5年をめぐりに)

- ① 地区の同窓会ネットワークづくり
 - ・イベントや地域活動に参加してくれた人達のつながりをきちんと残す
 - ・中高生などで、その後外へ出た子達にも連絡をして手伝ってもらう

(4) 行政や企業への協力依頼

- ① 地元企業に協賛の働きかけをしていく
 - ・道の駅や、大山病院などへの働きかけを検討する

まちづくり行動計画策定会議委員名簿

	氏名	町	所属		氏名	町	所属
1	徳岡 武義	下戸田	活き・区長・第1期	1	平木 清美	八日町	区長・第1期
2	岸本 信子	寺内	活き・第1期	2	山口 實	上丘町	区長・第1期
3	笹倉 忠三	寺内	活き・第1期	3	春藤 峰雄	蒲江	区長・第1期
4	柳田みどり	大野	活き・第1期	4	藤井 邦彦	西嶋	第1期
5	藤井 照通	蒲江	活き・第1期	5	藤原 邦夫	西嶋	第1期
6	松尾 憲子	嶋	活き	6	川口美恵子	坂本	第1期
7	早崎 忠志	大野	活き・第1期	7	中田 寿樹	寺内	第1期
8	高岡 利幸	上戸田	活き・第1期	8	竹中 信策	寺内	第1期
9	臼井 茂樹	上戸田	活き・区長・第1期	9	吉田 旭伴	下戸田	第1期
10	徳岡多加志	津万	活き・第1期	10	永井那央子	上野	第1期
11	笹倉智津子	寺内	活き・第1期	11	藤岡 朋也	蒲江	第1期
12	藤岡 早苗	蒲江	活き	12	稲垣 研二	大垣内	第1期
13	高岡 吉和	津万	活き・第1期	13	藤井 康精	上丘町	第1期
14	宮崎 博行	坂本	活き・第1期				
15	西村 安正	坂本	活き・区長				
16	浦上 文和	大野	活き・区長・第1期				